

平成26年度 宝木中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- (1) 基本目標 「人間尊重の教育を基盤に、知・徳・体の調和のとれた発達を目指し、心身共に健康で知性と創造性に富み、心情豊かでたくましく社会に生きる人間の育成」
- (2) 具体目標（具体的な生徒像）
- ①気力・体力のあるたくましい生徒（たくましく）
 - ②自ら学びよく考える生徒（さとく）
 - ③心豊かで礼儀正しい生徒（あかるく）
 - ④がまん強く進んで働く生徒（いきいきと）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校は ○子どもたちにとって居心地のよい楽しい場所であること
○教職員の「生きがい」や「やりがい」を感じる場所であること
○保護者、地域の皆様から信頼される場所であること
上記のような学校を目指し、信頼と心の触れ合いを基盤とした豊かな人間関係に支えられたぬくもりと夢のある学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえるとともに、生徒の実態や学校や地域の特色を生かした教育課程の編成と実施に努める。
- (2) 学習意欲を高める指導や基礎・基本の確実な定着を図る指導、個に応じた指導など指導方法や指導体制の工夫・改善を図るとともに、家庭学習の充実を図ることにより、生徒一人ひとりの確かな学力の育成に努める。
- (3) 生徒一人ひとりの共感的理解を基盤とした生徒指導の充実を図り、望ましい人間関係に基づく学級集団づくりを通して、豊かな人間性や社会性の育成に努める。
- (4) 道徳の時間の充実を図り、生徒一人ひとりの道徳的実践力を高めるとともに、読書活動の充実や生徒が主体的に取り組む体験活動を通じて、生徒の内面に根ざした道徳性の育成に努める。
- (5) 家庭や地域と連携を図りながら健康管理や体力づくりを推進するとともに、食に関する指導の充実を図るなど、生徒一人ひとりが将来にわたって健康に生活していけるよう指導に努める。
- (6) 教育活動全体を通じて、生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育、進路指導を推進し、一人ひとりの社会的・職業的な自立に向け必要となる能力・態度の育成に努める。
- (7) 家庭や関係機関と十分に連携を図った特別支援教育を推進し、生徒一人ひとりの教育ニーズに応じたきめ細かな指導や長期的な視点に立った支援に努める。
- (8) 小中一貫教育を推進し、学校園での共通理解を図りながら望ましい生徒の育成に努める。
- (9) よりよい教育環境を整備し、よき伝統や地域の特色、教員の創意を生かした特色ある学校づくりの推進に努める。
- (10) 学校・家庭・地域社会との連携を深め、信頼される学校を目指すとともに、地域に開かれた学校づくりに努める。

[宝木地域学校園教育ビジョン]

「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成をめざして

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

「生徒一人ひとりの自尊感情を高める指導の充実」

「よりよい人間関係を育む学級集団づくり（学業指導の推進）」

○「基礎的・基本的学力の確実な定着（家庭学習の充実）」

【 学 習 指 導 】

「学ぶ意欲を高め、基礎・基本の確実な定着を図る指導の工夫・改善」

【 児 童 生 徒 指 導 】

「一人ひとりの心を育てる生徒指導の推進 ～ルールやマナーを守り、思いやりの心をもって行動できる生徒の育成～」

【健康（保険安全・食育）・体力】

「心身ともに健全でたくましく生きる生徒の育成」

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

| 項目 | 評価項目 | 主な具体的な取組 | 方向性 | 評価 |
|---------|---|--|-----|---|
| 学校運営の状況 | A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 | ① 学校行事では、生徒の自主的・主体的活動を積極的に取り入れ指導にあたる。 ② 出張の際、授業交換を積極的に行い、教員が生徒と向き合う時間の確保に努める。 | B | 【達成状況】 生徒の肯定的回答 86.5%で 1.9%上がった。 行事内容の工夫により、準備段階から前向きに取り組む姿勢が見られた。 【次年度の方針】 生徒が主体的に取り組めるように、計画段階から生徒の意見を取り入れるなどの工夫をしていく。 |
| | A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 | ① 教職員は、「認める、ほめる、励ます」指導に力を入れ、生徒への声かけを大切にすると共に、保護者への丁寧な対応をする。 | B | 【達成状況】 生徒の肯定的回答 93.6%で 0.7%上がった。 生徒の言動に耳を傾け、生徒の自尊感情を高める指導・声かけを心がけている。 【次年度の方針】 教職員の共通理解・共通行動を強化し、組織的対応をしていく。さらに、保護者との連携を深め、共に子どもを育てていく意識を高めていく。 |
| | A 3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 | ① 「学びのルール・マナー」を設定し、チャイム着席や5分前行動などの基本的な生活習慣の定着を図り、全校体制で授業を支える学習環境づくりに努める。 | A | 【達成状況】 生徒の肯定的回答 79.2%で 2.3%上がった。しかし、80%には僅かながら届いていない。 学校全体に落ち着きがあり、学習環境が整ってきている。 【次年度の方針】 基本的な生活習慣をさらに構築するために、ルールの徹底を図っていく。 |
| | A 4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 | ① 生徒の考えを引き出し、深められるような発問の工夫をする。 ② 基礎的・基本的事項の確認のための小テストなどを実施し、学力の底上げに努めている。 | B | 【達成状況】 生徒の肯定的回答 82.1%で昨年と同様。 板書の工夫や小テストの実施により、学習内容の定着を図っている。 【次年度の方針】 言語活動の充実を目指した授業を展開させるため、指導法の研究や実践を重ねていく。 |
| | A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 | ① 道徳・学級活動等において、いじめ根絶にむけた授業内容を厳選し、定期的実施する。 ② 「いじめ防止アンケートなどの教育相談機能により、早期発見・早期解決を図る。 | B | 【達成状況】 生徒の肯定的回答 89.7%である。 いじめ根絶に関する指導を強化している。 また、教育相談機能を十分に発揮している。 【次年度の方針】 いじめ未然防止を目的とした、授業や集会を実施する。また、生徒への声かけを多くの場面で実施し、生徒の変化を素早くキャッチしていく。 |
| | A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 | ① 学校行事の目的の明確化と昨年度の反省を生かした内容の工夫改善を図る。 | B | 【達成状況】 生徒の肯定的回答 88.5%で 3.1%上がった。 授業時数を確保するために、授業交換や曜日変更をする等の、様々な工夫をしている。 また、行事の精選を行っている。 【次年度の方針】 授業時数の確保に努める。さらに、行事等の目的を明確にしていく。 |

| | | | |
|----------------|---|---|---|
| | <p>A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。</p> <p>【数値指標】 保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上</p> <p>A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。</p> <p>【数値指標】 保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上</p> <p>A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。</p> <p>【数値指標】 保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上</p> <p>B 1 学校は、生徒の安全確保に努めている。</p> <p>【数値指標】 生徒・保護者の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 「学校だより」「学年通信」「学級通信」を定期的に発行する。</p> <p>② 授業参観・懇談会や学校公開日の回数を増やし、内容の工夫を行う。</p> <p>① 学校行事を通して、地域協議会や保護者との連携交流を図る。</p> <p>② 地域社会との連携を深め、地域におけるボランティア活動や行事への参加・協力を推進する。</p> <p>① 用具を充実させながら、清掃活動の活性化を図る。</p> <p>② 教室・廊下等の掲示物を精選し、きれいで見やすい掲示コーナーづくりに努める。</p> <p>① 全職員による立哨指導を行い、危険場所を公表し、安全な登下校に努める。</p> <p>② 学校行事の際の安全確保を保護者の協力体制を推進する。</p> | <p>【達成状況】 保護者・地域住民の肯定的回答がそれぞれ6.0%、12.5%上がった。</p> <p>B 保護者・地域住民への発信が定期的に行われている。</p> <p>【次年度の方針】 ホームページの充実を図ると共に、地域コミュニティセンターの協力を仰いでいく。</p> <p>【達成状況】 肯定的回答は、保護者が昨年同様、地域住民は22.2%上がった。</p> <p>A 学校行事や体験活動においては、保護者の連携協力が得られている。また、地域行事へのボランティア参加生徒が増えてきた。</p> <p>【次年度の方針】 地域協議会との連携を強化していく。</p> <p>【達成状況】 肯定的回答は、保護者が1.9%上がり、地域住民は昨年同様。</p> <p>B 清掃にまじめに取り組む生徒が増えている。教師の肯定的回答が35.5%上がっている。教室内外の掲示方法の統一化や独自の工夫により、わかりやすくなっている。</p> <p>【次年度の方針】 称賛をしながら、継続指導をしていく。</p> <p>【達成状況】 生徒・保護者の肯定的回答がそれぞれ86.8%、92.0%、僅かながら上がった。</p> <p>B 保護者と協力して、交通安全対策を行ってきた。また、避難訓練の内容を工夫している。</p> <p>【次年度の方針】 自転車の正しい乗り方について、指導の強化をしていく。 小中が連携した災害対策訓練の実施を検討していく。</p> |
| <p>教育活動の状況</p> | <p>生 A 10 生徒は、進んであいさつをしている。</p> <p>活 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p> <p>A 11 生徒は、正しい言葉づかいをしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 全学級及び小中合同の朝のあいさつ運動を実施し、明るく活気ある学校づくりに努める。</p> <p>① すべての授業において、望ましい言葉づかいの習慣化を図る。</p> <p>② 相手や場に応じた適切な言葉づかいの指導と共に、他人の話を聴く態度の育成を図る。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答84.3%で4.4%上がった。</p> <p>B 今までの努力の成果が表れてきた。明るく元気にあいさつをする生徒が増えてきた。</p> <p>教職員の肯定的回答80.6%で昨年より41.9%上がり、手ごたえを感じている。</p> <p>【次年度の方針】 教職員が、進んであいさつを交わしていく姿勢を示す。さらに、保護者・地域住民にも進んであいさつをするように啓発していく。</p> <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答78.2%で6.3%上がった。</p> <p>A 望ましい言葉づかいや相手に対して失礼のない言葉づかいの指導の成果が出てきた。</p> <p>教職員の肯定的回答61.3%で41.9%上がったが、80%に達していない。</p> <p>【次年度の方針】 学校生活全般での指導を強化していくと共に、家庭での言葉づかいをきちんとさせるように保護者に啓発していく。</p> |

| | | |
|---|---|---|
| <p>B 2 自分は、身近なルール・マナーを守っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 善悪の規準を示し「だめなもののはだめ」というぶれない指導を粘り強く行う。</p> <p>② 家庭や地域社会との連携を強化し、身近なルールやマナーを守ろうとする意識の向上を図る。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答 94.2%で 16.2%上がった。 これまでの指導の成果が表れ、学校全体が落ち着いた雰囲気になってきた。</p> <p>【次年度の方針】 生徒一人一人の規範意識の向上を図れる、指導を努めていく。</p> |
| <p>健康・体力 A 12 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 部活動や保健体育の授業において、健康増進・体力向上の基本知識を身につけさせ、さらに集団行動や学ぶ態度の習得を図る。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答 69.2%で 2.5%上がった。 しかし、80%には到達していない。 部活動や保健体育時には積極的に運動しているが、昼休みや放課後は他の活動が多くあるので、運動する時間が確保できないのが現状である。</p> <p>【次年度の方針】 部活動の充実と保健体育の授業内容の工夫を図る。</p> |
| <p>A 13 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 保護者に「食育だより」を配付し、家庭への啓発活動を行う。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答 76.6%で 4.3%下がった。 給食指導や「食育だより」を通して、食の大切さを指導している。</p> <p>【次年度の方針】 家庭での「食」について、保護者への一層の働きかけを継続していく。</p> |
| <p>B 3 生徒は、部活動に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 部活動紹介を充実させ、部活動加入率の向上を図る。</p> <p>② 保護者に「部活動大会」の案内を配付し、理解と啓発を推進する。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答 85.4 で 2.8%上がった。 好成績を上げる部が表れたことで、他の部においても、意欲的に取り組む生徒が増えてきた。</p> <p>【次年度の方針】 保護者の理解がさらに得られるような、働きかけをしていく。</p> |
| <p>学 習 A 14 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 各教科でグループ学習を積極的に取り入れ、話し合い活動を充実させるなど、学習活動の工夫を図る。</p> <p>② 習熟度指導やTTなど、個に応じた指導の充実に努める。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答 77.2%で昨年同様。 基本的な学習習慣の育成を図っている。授業への取り組みに積極性が出てきている。</p> <p>【次年度の方針】 学習活動や授業内容の工夫をしながら、生徒の学習意欲を向上させる手立てを講じる。</p> |
| <p>A 15 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 「わかる授業」の実践を心がけ、学ぶ意欲や態度を育てる。</p> <p>② 年度当初にノート作りの約束事を決め、効果的且つ活用しやすいノートづくりを推進する。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答 80.1%で 7.3%上がった。 教職員・保護者の肯定的回答がそれぞれ 16.1%、6.6%上がった。 生徒指導上の問題が激減し、授業妨害等が無くなってきたことで、非常に落ち着いて雰囲気の中で、学習に取り組んでいる。</p> <p>【次年度の方針】 「わかる授業」を行うための授業研究会等を積極的に行う。</p> |

| | | | |
|-----------|---|--|---|
| | <p>B4 生徒は、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 家庭学習の仕方等を示し、自学できる態度を養う。</p> <p>② 学級懇談や個人懇談等において、保護者への啓発を推進する。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答 75.6%。しかし、教職員・保護者の肯定的回答がそれぞれ 22.6%、60.9%と低く、生徒との認識の違いが明らかである。家庭学習の習慣化が本校の課題の一つと言える。</p> <p>【次年度の方針】 宿題の出し方を工夫し、自主学習の方法を細かく示した資料等の作成を行う。さらに、保護者への協力を促す。</p> |
| 本校の特色・課題等 | <p>B5 自分は、進んで挙手し、大きな声で発表するなど授業に対して積極的に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 「わかる授業」の展開を中心に、学習意欲の喚起と家庭学習習慣の育成を図る。</p> <p>② 個に応じた言葉かけや支援及び生徒の良さを認めたまめ細やかな指導を心がける。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答 54.0%で 3.4%下がった。一昨年よりもさらに低い数値になった。</p> <p>授業への取り組みは向上してきたが、自分の意見等を発表するなどの積極性は乏しい。本校の課題の一つと言える。</p> <p>【次年度の方針】 学び合い学習の場を意図的に設定したり、間違った意見を容認できる人間関係の構築をしたり、学業指導を通して自尊感情の向上や積極性を養っていく。</p> |

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

昨年・一昨年と比較すると、教職員・保護者・生徒いずれも肯定的回答の数値が大きく向上している。このことは、学校内が間違いなく正常化している表れであろう。生徒指導に関して労を要する時間が少なくなってきたことで、今後は、学習指導を強化してく事が本校の課題となろう。

特に、あいさつや言葉づかい、さらに発表する等の「言語活動」「表現活動」を育成していく必要がある。良好な「言語表現活動」を推し進める上での基礎となる、コミュニケーション能力や人間関係の醸成なども併せて育成する必要があると思われる。

中学校だけでは課題の解決は不可能であるところから、小学校との連携を強化して9年間を見越した指導が重要であろう。さらに、保護者・地域住民が学校に対して好意的になっていることから、学校からの発信を適切に行い、協力を仰いでいくことも重要であろう。

6 学校関係者評価

- ・あいさつや言葉づかいに関しての意見が多く挙げられた。学校だけの取り組みでは限界があるので、家庭・地域を巻き込んだ方策が必要ではないか。
- ・保健関係者からは、病気・虫歯の予防に関しての意見があった。家庭への啓発は、学校だけではなく関係機関（医師会）との連携を視野に入れてもよいのではないか。
- ・「食」に関しては、各家庭の努力に委ねる部分が大きいが、地域としてできることはないかと模索しているところだとの意見があった。
- ・家庭学習では、家庭間の経済格差が如実に表れているような気がするとの意見があった。その中で、やはり学校が中心となって家庭や地域を育てる必要があるのではないかと意見があった。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校が抱える学習面の課題にしても、コミュニケーション能力や自己肯定感・自己存在感などの自尊感情の欠如の問題にしても、根本が「家庭や地域」にあると考えられる。だからこそ、学校が中心となって「家庭や地域」を育てるという意識が必要になってくるのだと思う。

こうした課題の解決に向けては、小中一貫地域学校園が一体となって、取り組んでいかなければならないのだと思う。中長期的な方針を示し、発達段階に応じた実効性のある教育活動を推進していきたい。